

プロサッカーチームを対象とした環境マネジメント

伊坪 徳宏研究室

1762043 高橋 毅一郎

1.はじめに

2018 年、COP24 でパリ協定の運用指針と共に、目標達成に向けて「スポーツを通じた気候行動枠組み¹⁾」が採択された。

スポーツに関する環境評価事例は、イベント評価を対象とした事例が多く、スポーツ団体という組織を対象とした環境評価の事例は海外で事例があるが、国内では数少ない。プロスポーツ団体はサポーターやスポンサー、会場など多様なステイクホルダーが関わるため、これらが共有できる環境情報を提供することは目標の設定と行動喚起に極めて有効であると考えられた。一方で、環境マネジメントシステムの運用のためには、環境評価とその活用を継続的実施に基づく PDCA サイクルを確立する必要があると考えられた。

本研究では、プロサッカーチームを対象に CFP を実施するための評価システムを構築し、多様なステイクホルダーを網羅したカーボンフットプリントを継続して実施するとともに、関係者とのコミュニケーション等を通してその効果を検証した。

2.方法

2.1 算定方法

本研究の算定方法を表 1 に示す。CFP の算定には原単位法を採用した。評価期間は三年間を対象とするが、一年ごとの変化を見るため、各年度で算定結果を求めてその推移を比較できるようにした。また、本研究では新型コロナ禍の影響についても分析するため、年度途中ではあるが半期分のデータから一年の予測評価を実施した。特に今年

度は遠征の頻度や観客数が大きく変化したことから、機能単位は、一年のほか、1 試合当たり、観客一人当たりについて、それぞれ設定した。

表 1 算定方法

評価対象	株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ
算定方法	インベントリ=Σ(活動量×原単位)
活動量(円) 1次データ	株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 平成30年3月～令和2年9月
原単位	産業連関表による環境負荷原単位データブック(3EID)2015
機能単位	スポーツ団体「株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ」の <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の事業活動 ・ 1試合当たりの事業活動 ・ 観客1人あたりの事業活動
年度別試合数	2018年度 全56試合中 ホーム:30試合 人数:195982人 J2リーグ:21試合/ルヴァン杯:5試合/天皇杯:4試合 2019年度 全47試合中 ホーム:24試合 人数:183645人 J2リーグ:21試合/ルヴァン杯:0試合/天皇杯:3試合 2020年度 全42試合中 ホーム:12試合 人数:21427人 J2リーグ:12試合/ルヴァン杯:0試合/天皇杯:0試合

2.2 評価範囲

本研究の評価範囲を図 1 に示す。主催者(フロント・チーム)のほか、来場者、会場を含む施設を含めた。広告や搬送などサービスに関わる項目が相対的に多く含まれることから、活動量としては料金データを多く用いた。

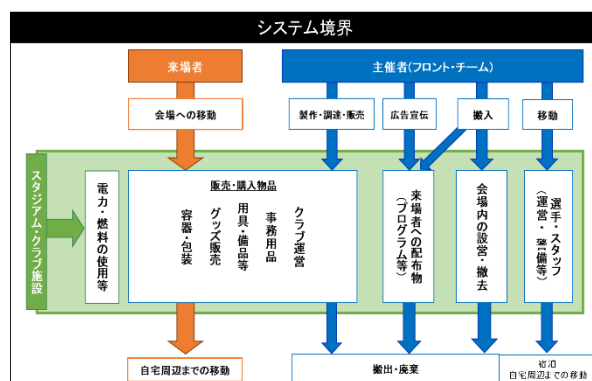


図 1 スポーツ団体の評価範囲

